



広報委員会主催の『キーワード読書会』スタート

第1回は「こころ」ミステリー、詩歌、評論など多彩な読書歴が披露される



第1回は5月11日(火)に実施。本好きの人が気軽に参加できる情報交換の場として、キーワードにそった読書会を企画しました。当日のキーワードは『こころ』。参加者それぞれが心に残った本、心惹かれた文章や感動した内容の本など『こころ』に関わる本を持参して集まり(自由参加)、書籍名、著者名など情報カードを作成。司会役がこのカードで無作為に本の紹介順をきめて読書会がはじまりました。何故この本に感銘を受けたのか? 好きな文章や著者への思いも含めて、話はどんどん膨らみ、途中の質問も応答も予想以上におもしろく、あっという間の2時間でした。

【紹介された本】

- | | |
|------------|--|
| ①古代人と夢 | 西郷信綱著(平凡社) |
| ②古今歌ことば辞典 | 菅野洋一・仁平直明著(新潮選書) |
| ③日本の詩歌22 | 三好達治著(中央公論社) / 詩を読む人のために 三好達治著(岩波文庫) |
| ④狂気について | 渡辺一夫著(岩波文庫) |
| ⑤ウォッチャーズ | ディーン・クーンツ著(文藝春秋) / ハイラム氏の大冒険 ポール・ギャリコ著(早川書房) |
| ⑥アナ・トレントの靴 | クラフト・エヴィング商会編(新潮社) |

第2回は「まつり」フェスティバル、祝祭、祀りが想いに乗って登場

7月13日(火)実施。キーワードは『まつり』。いろいろな祭りに関わる本を持参して、初回と同様に書籍名、著者名の情報カードの作成から始まり、順を決めて、参加者が本の紹介とあらまし・感想を述べていきます。今回は『まつり』の意味が多々あって選書が難しいとの声もありましたが、それぞれの本が舞台・歌・映画・絵画などにも通じ、ためになる読書会となりました。

【紹介された本】

- | | |
|---------------|--------------|
| ①子午線の祀り | 木下順二著(岩波文庫) |
| ②風の盆恋歌 | 高橋治著(新潮文庫) |
| ③ルイ・ジュヴェとその時代 | 中田耕治著(作品社) |
| ④祭りの準備 | 中島丈博著(映人社) |
| ⑤江戸っ子歳事記 | 鈴木理生著(三省堂) |
| ⑥ブリューゲルの家族 | 曾野綾子著(光文社文庫) |



第3回キーワード読書会は9月14日(火)午後6時半から。キーワードは『あらし』です(参加自由)。あらしに関わる(人との葛藤・嵐など)本をご紹介ください。

インタビュー 梅田中央図書館長に聞く

「図書館と本を通して、区民どうしや地域とのふれあいを期待」



7月中旬、ご多忙中の梅田中央図書館長に時間を割いていただき、お話を伺いました。館長は葛飾区の広報課や総務部を経たのち、今年4月から館長として就任されました。以前から抱いていた“図書館で働ければ”という希望が突然かなったという館長は、職員が働きやすい職場の雰囲気作りを心掛けており、職員の仕事ぶりには期待以上で、満足しているということです。

図書館が利用者の豊かな生活の一部になること、読書に興味のない人たちにも来館してもらいたい、そのためにビジネス支援や各種事業などにも力を入れていきたいこと、そして本を介して区民と区民のふれあいの場としての役割を果たしたい、特に団塊の世代と地域との結びつきを強めたいなど、館長として今後の抱負を語られました。「国民読書年」の今年は、読者が本を紹介し、それがさらに多くの読者をつないでいくという“ブックシェア”にも期待されているということです。

「来館者の声を聞きながら、より利用しやすい図書館にしたい」

平日には3,500人、土・日・祝日には4,000を超える人が来館するこの中央図書館の館長として、開館してまだ1年にも満たない今、これまでの利用者の声を聞きながら、すこしずつ施設やその運営、システムなどを見直していき、より利用しやすい図書館にしていきたいとも述べられました。また、図書館を支える「友の会」活動には大変感謝しており、他の友の会などとの交流を通して得た“他の図書館のいいところ”を積極的に提案して欲しいとの要望も出していただきました。

区内在住、JリーグのFC東京のサポーター、そして読書好きの2人の大学生の息子さんがいらっしゃる梅田館長は、“こどもたちへの読み聞かせに興味があり、いつかはやってみたい”などと、終始笑みを浮かべながら、1時間快く答えてくれました。

(取材 中里/栗竹/矢野)

友の会活動報告 立石図書館資料のリサイクル処理作業に協力



6月1日、7月1日および2日、そして8月3日および4日に、建て替え中の立石図書館が所蔵している資料のリサイクル処理を新宿図書センター2階でのべ30人強の友の会会員が協力しました。:新立石図書館に移管せず、除籍して有効活用してもらうための処理を図書館から依頼された作業です。

シールを貼り、除籍印を押しながら、話の花が咲く

資料に貼られている図書館のバーコードを隠すように、「除籍済み」のリサイクルシールをその上から貼り、そして最終ページ付近にある奥付の部分に「こ

の資料は、葛飾区立図書館で除籍処理したものです」との赤い除籍印を押すという、二つの作業方法を職員の方から説明を受けた後、作業がスタート。参加した会員は手際よく、流れるように黙々と作業を続けますが、時折、処理している書籍を手にとっての話の花がしばしば咲きました。

リサイクル処理を終了した約7千冊の資料はブックトラックに載せ、エレベーターで1階入り口左のリサイクルコーナーの書棚へと運ばれていき、来館者の“お持ち帰り”を待つということです。因みにこのコーナーに置かれたリサイクル処理済みの書籍はすぐになくなって、適宜補充しているとのこと。このリサイクル処理の協力は9月まで依頼されています。



中央図書館 1周年記念イベント 「友の会ウィーク」(11月1日から1週間)開催決定

会員所属のボランティア団体によるイベント ＝「講演会」や各委員会の活動なども披露＝

10月17日(日)は中央図書館の1歳のバースデー。「友の会」のイベント委員会では、中央図書館が同日から2週間にわたって行う『記念イベント』に引き続き、11月1日(月)から1週間をメインに、「友の会」主催による『友の会ウィーク』(仮)を計画しています。

内容は朝野熙彦氏(「友の会」会長、首都大学東京大学院教授)のセミナー(内容:報道・広告の正しい読み方について)、「友の会」各委員会による催し(児童・YA向けの催し、映画上映、読書会、各委員会活動PRなど)及び「友の会」会員が所属している各種団体の参加により多彩なイベントとなる予定です。また、11月13日(土)には岡村正史氏(プロレス研究者・エッセイスト)が「プロレスと日本人ー力道山・馬場・猪木とは何だったのか」(仮)を図書館資料の活用法を含めて講演します。

イベント委員会では、本イベントの開催に向け、9月11日(土)午後中央図書館で、第2回目の委員会を開催し、詳細を検討する予定です。

区内の図書館探訪記 第7回

広報委員会は区内の図書館を訪問・取材してきました。
おたすねした図書資料室さん、ご協力ありがとうございました。

■ 葛飾区男女平等推進センター内 図書資料室

男女平等や人権問題の資料が豊富

7月中旬の午後、立石のウィメンズパル内の葛飾区男女平等推進センター2階にある「図書資料室」を訪問した。男女平等や人権問題に関する書籍や雑誌などを中心に、約1万2500冊の蔵書がある。区内の図書館

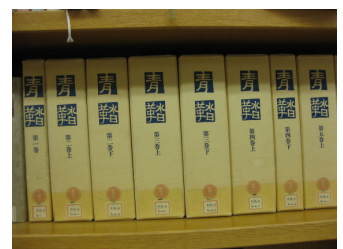


は教育委員会の管轄だが、ここは区の総務部人権推進課である。平成元年の(旧称)女性センターのオープンと同時にスタートというから、既に22年の歴史を持っており、平成4年(1992年)には区内図書館の貸出ネットワーク網に仲間入り。開室は月曜から金曜日。男女平等事業推進員(専門非常勤職員)が年3回程度の選書による約200冊の新規購入と資料整理などを行い、パートの方1名が貸出処理を行っている。

室内は女性に対する暴力・DV問題、女性の心と身体や健康問題、出産・育児、教育のコーナーを設置し、それぞれ赤、黄、緑、青の丸いシールで区分けしてある。そのほかに女性と労働や法制度、ワークライフバランスなどに関する蔵書も多いという。書棚の見出し板も「結婚・離婚」「家庭・性」「児童・青少年」「高齢者」問題などと記され、雑誌も女性に関するものが目立つ。

区内図書館ともオンラインで結ばれている

検索機「ハテナくん」1機、テーブルひとつに6脚の椅子の閲覧席、そしてとってもかわいい児童コーナーもあるが、貸出は自動とはいかず、従来通りのバーコードを読み取る方式。対応していただいたセンターの男女平等事業推進員の話では利用者も年々増え、毎日のように来る近隣の方や、出産・育児の本を求める男性の利用者、さらには区役所から近く、立石図書館の改修のためか、区職員の利用も多いという。



復刻版「青鞥」全集も所蔵

1階展示室には区の産業経済課消費生活センター所轄の「消費生活資料コーナー」もある。静かでもとてもじんまりとはしているが、存在価値のある、専門分野の明確な図書資料室だと感じた。ご存じない方は1回のぞいてみませんか?
(取材/中里・栗竹)

心にのこる私の一冊 ⑤

『戦争絶滅へ、人間復活へ ―九十三歳・ジャーナリストの発言』

著者 むのたけじ 聞き手 黒岩比佐子 岩波新書 2008年刊

鵜木 輝一

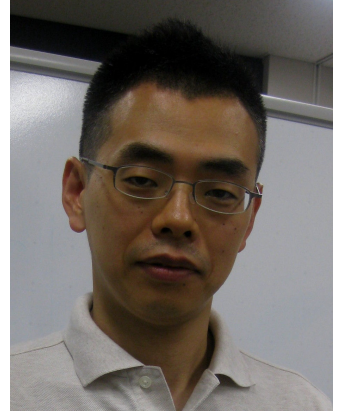
九十才を過ぎても現役ジャーナリストとして活躍している むのたけじ さんの発言集。

むのさんは戦前は朝日新聞の記者だったが、戦後は新聞記者としての戦争責任を痛感し会社を辞め故郷秋田県へ戻り、数年後、個人で新聞「週刊たいまつ」を発刊、地元東北の農業や教育についての鋭い分析を三十年間続けた。九十三歳の今（2008年）、従軍記者時に見た戦場の本当に悲惨な様子や当時の新聞社の自己規制を語り、さらに、戦後の日本人が戦争に対する日本人自身による反省がないままで経済成長のみを優先してしまった結果、会社のペースで動くベルトコンベアの上に自分の生活を乗せてしまうような中身のない状態になってしまったと批判する。

むのさんは人生は六十年は苦勞しなければならず、九十三歳になった今が社会がもっともよく見えるようになったと言い、「人としてやらねばならぬと自分で思うことは、できるだけ力をこめてやる。人の道にそむくと思うことは、自分でやらないだけでなく、他人にもやらせないように手をつないでいく」のだと語る。

むのさんの行動と考え方は、私を勇気付けるものであり、私にとって大事な指針の一つである。

(うのき・てるかず スクラップブック「葛飾ニュース情報」作成委員長)



「葛飾図書館友の会」で一緒に活動してみませんか！

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？

毎月第3土曜日の午後1時から4時まで中央図書館内で、また従来通り友の会開催イベント時にも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員は1,000円、賛助会員は2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を下記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、22年度年会費とご記入下さい。振替手数料は銀行窓口では120円、ATMからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

●問い合わせ・連絡先中央図書館担当者（玉川さん、吉村さん、清水さん、白井さん）Tel 03-3607-9201

色えんぴつ

建物から一步、踏み出すやいなや押寄せるサウナ状の熱気に、思わず「暖房効きすぎ！」。図書館に長居して気持ち良く冷えたカラダが一瞬季節を錯覚してしまった▼金町からの帰路、照り返しまぶしい道を自転車で走る。昨年までの葛飾図書館、現在の新宿図書館センターを過ぎ、中川橋までたどり着いて一息。川風に当たりながらスカイツリー遠望を友人に「写メ」する。工事はすでに展望台に達し、さらに延びた部分が蓋をしたお椀のようで何か可笑しい。▼東京タワーの高さを越えたと報道された頃にはわざわざ隅田堤まで出かけたもので、この地点で初めて見かけた日（六月）には仰天した。近頃ではさらに大きく見事に見えるスポットも各所に発見。高度が増した証なんだろう▼さて中川と言えれば池波正太郎の『鬼平犯科帳』である。ご存知だろうか、「狐火」の回（文春文庫新装版第6巻に収録）はちやうどこの辺り、新宿側の川端の茶屋が舞台になっている▼江戸時代、中川橋の位置には「にい宿の渡し」があったとか。現地に江戸の名残はみじんもないけれど、広重の『名所江戸百景』で昔のようすが知れる。外出ついでの名所めぐり、手近で出来るインスタント文学散歩。出不精者の楽しみになっている。

(林広報委員)